

第39回日本証券アナリスト大会を終えて

大会実行委員長 村松高明
(SMBC日興証券)

2024年10月11日に開催された第39回日本証券アナリスト大会は、「資産運用立国とアナリストの役割」をテーマに、2023年度に続き、2024年度も会場開催とライブ配信のハイブリッド形式での開催となりました。実は私はこの日本証券アナリスト大会の実行委員長を務めさせていただくのは2回目になります。前回は2020年で、コロナ禍に突入し、初めてウェブでのライブ開催となった大会でした。まだウェブの扱いにも不慣れな中、関係者の皆様が大変な苦勞をして開催にこぎつけたことを鮮明に記憶しております。それから4年、再度大会実行委員長を仰せつかりましたが、各種セミナーや講演会のウェブ開催が常態化したこともあり、会場参加がかなわない多くの皆様もオンラインで参加していただけた一方で、リアルなコミュニケーションの場も提供できるハイブリッド開催が円滑に実施できたことを心より嬉しく思います。それと同時に技術面などでこの4年間の様々な変化を改めて実感することができました。関係者の皆様におかれましては、大会の運営に当たり、多大なる尽力を賜りました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

さて大会に先立ち、本大会のテーマを設定するに当たり、実行委員の間で様々な議論をして参り



村松高明実行委員長

ました。その中で強く意識されたのは、いわゆる「VUCA：Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）時代」とも呼ばれる先行きが見極めにくい環境だからこそ、日本の「資産運用立国」の実現に向けて、われわれアナリストが果たすべき役割について再考すべきという論点です。2023年12月の岸田政権による「資産運用立国実現プラン」の策定後、官民で様々な取り組みが進んでおります。今回の証券アナリスト大会では、「資産運用立国」の実現に向けた企業の資本効率改善や企業価値向上施策、またそのような企業努力に対応する証券アナリストの様々な挑戦や課題につき考察したいとの実行委員の一致した思いで、テーマを設定いたしました。